

「協働学習」を取り入れた英語授業の実践

1 はじめに

本校では、「基礎・基本を身につけ、活用する生徒の育成—きっちり教え、じっくり考えさせる授業—」という研修テーマで校内研修を行っている。教科書の内容や教師が説明した内容を確実に生徒に理解させ、その理解をさらに深化させるために、小グループでの協同的問題解決場面を設定することを全校で行っている。本実践報告では、本校英語科として、協同的問題解決場面を設定した授業、即ち、「協働学習」をどのように行ったかについて紹介したい。

2 「協働学習」を取り入れたポスター作成・スピーチ活動

3年生での、Total English 3のLesson 5では、「書くこと」と「話すこと」に焦点を当てて、それまでに学習したことと、関係代名詞（主格）のwhoを用いながら、グループで身近な人物について紹介する英文を書き、発表する活動を行った。関係代名詞を用いると、人物や物について1文でより詳しく説明できるようになる。そこで、身近な人物として、「3年生の先生たち」をテーマとして、それまでに学習したことと、関係代名詞を使って、学年に所属する教師がどのような人物なのかを書かせて、関係代名詞の定着を図った。また、書いたものはグループで役割を決めて、

スピーチ形式で発表させることで、Chapter 3 Project「尊敬する人についてスピーチをしよう」に向けて、相手に伝わる文とはどのようなものか、相手にとって聞きやすい話し方とはどのようなものかについて、意識を喚起し、この発表で学んだことをChapter 3 Projectで生かすことができることも狙って指導をした。

この授業では、**習熟度を考慮した4人グループによる協働学習を取り入れて**活動を行った。具体的には、事前に教師について情報を集めるために、4人の生徒個々に、教師たちにインタビューをさせた。その後、持ち寄った情報をもとにグループで関係代名詞whoを使って教師についての英文を書かせた。その際は、教科書、英和辞書、和英辞書、授業で使っているファイルを1冊ずつ

使っても良いこととした。1冊ずつとしたのは、**1つのものを共有することで、仲間と共に活動している状況を作り出せる**と考えたためである。英文を完成させた後には、画用紙に英文と教師の似顔絵を描かせて、ポスターにした。似顔絵を描かせた理由は、**英語が苦手な生徒も似顔絵を描くことで積極的に活動に参加させることができる**からである。ポスターを作成したあとは、それを使ってグループでスピーチに取り組みさせた。発表させる際は、どうすれば聞きやすい発表となるかに意識をもたせることに留意した。スピーチの中では、グループのメンバー全員で声をそろえて言う場面も作り、グループで1つのスピーチを創りあげるといった感覚をもたせることに留意した。

協働学習の形態を授業に取り入れてみて、**習熟度を考慮したグループ編成としたため、英語が苦手な生徒も、得意な生徒の力を借りて英文を作ろうとする様子が見られた**。また、一方的に教えられて英文を書いたわけで無く、**一から自分たちで作った英文のため、頭によく残っている**という生徒の感想も聞かれた。

3 成果・課題

生徒の感想からも分かるように、「協働学習」を取り入れた授業を実践した成果として、**小グループで問題解決をすることで、教師が主導となって教えるよりも、学習内容が定着しやすい可能性がある**ことが分かったことが挙げられる。しかし、現段階では可能性があるということは分かったが、数値で分かるような検証はまだ行っていないため、これからもこのような協働学習の形態を取り入れた授業を行っていく中で、数値で分かる成果があるのかどうかを検証していきたいと考える。

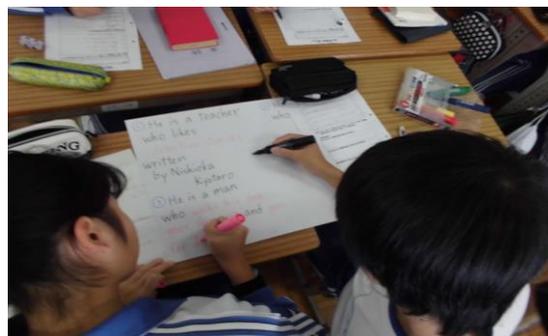


図1 ポスターを作成する様子



図2 スピーチの様子